

石見相聞歌朗詠や記念講演  
**歌聖・人麻呂しのぶ**  
 江津で万葉フェスティバル



石見相聞歌を朗詠する川島芙美子会長（中央）や江津市民＝江津市嘉久志町、地場産業振興センター

石見と関係が深い万葉歌人・柿本人麻呂の魅力に迫るイベント「万葉フェスティバル」が1月13日、江津市嘉久志町の地場産業振興センターで開かれた。人麻呂の和歌の朗詠や記念講演などがあり、来場した約300人が、多くの秀歌を残した歌聖へ思いを寄せた。

約1300年前、石見に国司として赴任した人麻呂は、同市二宮町が生誕地とされる。このほか、京都大名誉教授の内田賢徳氏が「山陰の万葉歌」と題し講演し、人麻呂の和歌について解説。歌手の早苗ネネさんによる石見相聞歌を題材にした歌の披露もあった。

川島会長は「多くの人に来ていただいた。今後も地域の宝である人麻呂や万葉集を見つめ直し、広めていきたい」と話した。

山陰中央新報社による1月14日の記事（写真は会から提供）



第1号

平成26年  
 3月1日発行

「山陰万葉を歩く会」の設立を記念して第1回万葉フェスティバルを1月13日（月）に江津で行いました。お陰様で約350人の方々に参加戴き、山陰の万葉を楽しんで下さいました。御礼を申し上げます。



（藤岡大拙氏祝辞「山陰の万葉歌人と観光資源」）



（内田賢徳氏講演「山陰の万葉歌」）



（早苗ネネ氏による「石見相聞歌」作曲発表）



（トークショー「石見を愛した人麻呂さんの恋」）

「山陰万葉を歩く会」の設立を記念して、島根県江津市においてフェスティバルを開催します。

万葉フェスティバル 石見  
**FESTIVAL in IWAMI**  
 平成26年  
**1月12日・13日**  
※1月12日と13日は開催場所が異なります。下記の内容を順次ご覧いただきお申し込みください。

**1月12日【万葉スポット巡り】** ※参加無料 ※バスガイド付  
 江津コース ◎集合場所：JR江津駅 ◎時間：13:00集合～16:30解散予定  
 高角山公園／郡野津柿本人麻呂神社／君寺／大崎原／伊豆神社 など  
 益田コース ◎集合場所：JR益田駅 ◎時間：14:00集合～17:00解散予定  
 高津柿本神社／戸田柿本神社／鴨島遠望地／万葉公園 など  
※宿泊を希望される方はお申し込み時にお知らせください。◎江津市観光協会 TEL(0855)52-0534

**1月13日【万葉フェスティバル】** 10:00～15:30  
 ◎会場 島根県中央地域地場産業振興センター 島根県江津市高久志町4-65 電話:0855-52-0600  
※観覧の申し込みをご確認ください。

ご祝辞	「山陰万葉を歩く会」の設立を記念して「山陰の万葉歌人と観光資源」	藤岡大 拙
朗詠	「石見相聞歌」	地元有志
講演	「山陰の万葉歌」	京都大学名誉教授 内田賢 徳
朗読	「人麻呂と依羅姫」	たまも 会
ミニコンサート	和歌うた「石見相聞歌」作曲発表	早苗ネ ネ
トークショー	「石見を愛した人麻呂さんの恋」	和 藤 末 成 弘 明 村 尾 靖 子 川 島 芙 美 子

◎出 店：万葉まんじゅう／万葉せんべい／万葉弁当／生菓子（人麻呂和行）ほか

お申し込みは裏面の申込書をご利用ください▶

【お問い合わせ先】山陰万葉を歩く会事務局（江津市商工観光振興課） TEL(0855)52-2501・FAX(0855)52-1379 E-mail:ohp@tsutomu@city.gotsu.jp  
◎共 催：山陰万葉を歩く会、江津市実行委員会 ◎後 援：江津市 ◎協 力：江津市観光協会、河津町観光協会、益田市観光協会、大田町観光協会

なお、1月12日（日）には益田・江津のスポット巡りを行い、定員をオーバーする申し込みをいただき感謝致します。

※フェスティバルの詳しい内容及び入会の申込書等は、島根県立万葉公園のHPをご覧ください。http://ohata.jp/manyou/

# 点晴

TENSEI



## 山陰の万葉

ひとくちに山陰といっても東西約400キロと細長く、とりわけ島根県西部と鳥取県東部とは経済的、人的交流はほとんどない。益田市に住む小生にとって鳥取市は十数年前にカニツアーで行っただけ。まことに縁遠い地であった。しかし、意外なところに両市を結び付ける手があった。それは「万葉集」である。

7世紀後半から8世紀中葉にかけて、万葉集の有名歌人が国守（今日の県知事）としてこの山陰に滞在した。約半世紀のタイムラグがあるものの、柿本人麻呂は石見国守となった。門部王（かどべのおおきみ）は出雲国守として赴任。大伴家持（因幡国）と山上憶良（伯耆国）は今日の鳥取県域の地方長官に任ぜられている。

この奇しき縁に目を付けたのが松江市在住の川島芙美子さんだ。「こども出雲国風土記」や「石見の人麻呂さん」などの著者で、風土記を訪ねる会の会長を務める彼女は「四歌人が山陰で詠んだ歌は、両県にまたがる誇りうる文化遺産。今一度価値を見直して両県の文化、経済等を含めた交流を進めよう」と音頭を取り「山陰万葉を歩く会」を立ち上げた。

今年1月、人麻呂の「石見相聞歌」の舞台となった江津市で設立記念の「万葉フェスティバル in 石見」を開催。西は人麻呂の生誕・終焉（しゅうえん）と言えられる益田市から、東は万葉集編纂（へんさん）の中心的役割を果たした家持ゆかりの鳥取市から両県合わせて約300人が集まった。

柿本人麻呂、山上憶良、大伴家持の3人は万葉集の五本の指に入る大歌人ながら、出雲国の知事さんだった門部王はあまりなじみがないようだ。

「飢宇（おう）の海の 川原の千鳥 汝が鳴けば 我が佐保川の 思ほゆらくに」門部王（巻三・二七二）

「飢宇の海」とは現在の中海を指す。奈良の都の佐保川べりに住んでいた若き貴公子が詠んだ望郷の歌である。歌碑は松江市出雲郷（あだかえ）地内の阿太加夜（あだかや）神社に意宇川に面して静かにたたずむ。門部王がいたころは出雲国風土記の調査、編纂の真っ最中。都人に山陰の地はどのように映ったのであろうか。律令時代の庶民の苦しい農村生活を描いた山上憶良の社会派ともいえる秀作「貧窮問答歌」。一般には筑前国の国守時代の作というのが定説だが、昨年、文化勲章を受章した中西進さんは「それ以前の伯耆国の国守時代の歌」と主張。山陰説に軍配を上げる。

万葉集には4516首が収められている。そのトリを飾るのが大伴家持の歌だ。

「新（あらた）しき 年の初めの 初春の 今日降る 雪の いや重（し）け吉事（よこ）と」

旧鳥取県国府町（現鳥取市）はこの歌1首だけで20年前に「因幡万葉歴史館」を建てて万葉集の学びの拠点を整備した。益田からは5時間以上かかるが、ぜひ訪れてみたいものだ。（赤瓦）

山陰経済ウィークリー（2月4日号）より転載

山陰万葉を歩く会の設立主旨及び1月12日（万葉スポット巡り）1月13日（万葉フェスティバル）等につきましてメディア各社（朝日・読売・毎日・中国・産経・NHK・TBS・NTK・BSBS・石見ケーブルビジョン）などに報道して戴きました。お礼を申し上げます。会の主な活動は10月20日に石見の方々（34名）が、因幡万葉フェスティバルに参加して戴くことから始まりました。あらためて、万葉集でのつながりを感じました。今後も、万葉集（日本初のと歌集）の良さと山陰の風土に基づく昔ながらの暮らしの良さを見直しながら、皆様と見たり、聞いたり、歩いたりしたいと思っております。よろしくお願いいたします。



伯耆の万葉について、根鈴倉吉博物館長から聞く



因幡万葉歴史館での朗詠風景

「山陰万葉を歩く会」ご入会のご案内について  
概要

- 平成25年度事業内容
- 広域万葉地図の作成、講演会等の開催
- 万葉スポット巡り、会報の作成・発行等
- 平成26年度事業予定
- 講演会・万葉スポット巡り等の開催
- 会報の作成・発行等

会長 川島芙美子（風土記を訪ねる会代表）  
副会長 木谷 清人（鳥取市公益文化財団理事長）  
アドバ 藤岡 大拙（荒神谷博物館館長）  
イザー 内田 賢徳（萬葉学会代表）  
末成 弘明（いわみ芸術劇場館長）

年会費 個人2千円 団体1万円

会費の振込先

山陰合同銀行江津支店

普通 3659557

山陰万葉を歩く会 会長 川島芙美子

申し込み・問い合わせ先

事務局 江津市役所商工観光課観光振興係

TEL 0855-52-2501

FAX 0855-52-1379

E-mail shokokanako@city.gotsu.lg.jp

本活動の参考になる行事等

・大伯耆展「暮らしと祈り」倉吉博物館（倉吉市）

H 26年 5/17～6/24

・20周年記念特別展「因幡万葉歴史館（鳥取市）」

H 26年 10月～11月

・オペラ「ヒトマル」いわみ芸術劇場（グラントワ）（益田市）

H 27年 2月15日（日）上演予定

・第19回人麿の里万葉短歌大会 島根県立万葉公園（益田市）

H 26年 5月31日（土）

・「人麻呂さん石見に生きて恋して」山陰中央新報社刊

H 26年 3/20 出版予定